

6/23 五 7:22

沖縄はさよなら、アジア・太平洋戦争の沖縄戦で尊い命を奪われた三十数万人の犠牲者を追悼する「慰靈の日」を迎えます。沖縄戦で最後の激戦地となった本島南部の摩文仁の丘である平和祈念公園（糸満市）では、「沖縄平戦没者追憶式」が開かれます。鹿田文雄政権は、空前の大軍拡を推し進め、沖縄を敵前線基地として軍事要塞化しようとしたのです。「慰霊の日」に込められた「歴史による悔憤が再び起らぬように」との想い（原案例）によって、この日の慰霊の祭典の題名を踏みにじる形には詰られません。

主張

6・23「慰靈の日」

沖縄戦の惨禍再び起こさせぬ

方言9月、〔第2章〕句語部

支那の通商と通航

軍隊は住民を守らない

[新編の口] サービス業の口
23日(火) 鹿児島(那覇市)に向む
部を離れた日本車第32号の牛島義

司令官が自決し、組織的戦闘が終わった日として定められました。しかし、投降を許されなかつた日、本兵はその後も抵抗をやめず住民を含め犠牲者は増え続けました。

沖縄戦の犠牲者の最大の特徴は、単人よりも住民の死亡者数が多いことだとされます。

が敗色濃厚にもかかわらず、「本土防衛」「國体護持」を目的に戰鬪の継続・長期化を図り、首里から本島南部に撤退した」と、「住民多数が避難していた南部一帯は軍事施設の修羅場、阿波山際の地獄と化し、戦没者・戦傷病者が激増したと指摘しています。その上こまれた。これは住民一人あたり約50発（となる）△日本軍は沖縄をスパイ視して捕虜や虐殺をしたり、掠奪に出しや、米軍に探知されないためと乳幼児の殺害な

卷之三

の家の神は、悲惨な

卷之三

國は4月20日の衆院憲法の案を採り、并行して議論を終え、平和的合意を結んだ。

戦後このかた 私たちは「あなた
る戦争を憚み、平和な島を建設せ
ねば」と思つてきました。これが
これが／あまりにも大きすぎた代
價を払つて得た「ゆがむしい」ので
きない／私たちの価値なのです。
す」。痛苦の体験に殴打された
苦難を今こそ感じてみたい。

館の展示室に掲げられている「むすびのじゅせ」を紹介しました。

が敗色濃厚にもかかわらず、「本土防衛」「國体護持」を目的に戦
士激しく砲弾が撃ちこまれ、...本
南部の「屋武半島」一帯では、一カ

「やあ、お前達」を紹介しあつた。